

令和4年度 病虫害発生予察情報

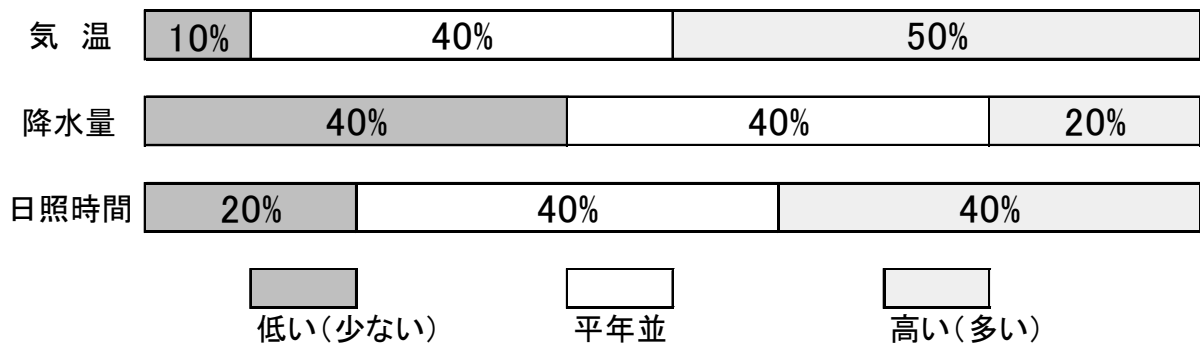
発生予報第4号（7月）

令和4年7月1日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並		
		紋枯病	平年並		
		縞葉枯病	平年並～やや多い		
		黄化萎縮病	平年並		
		ヒメトビウンカ	多い		
		ニカメイチュウ	平年並～やや多い		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		セジロウンカ	平年並～やや多い		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	やや多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	やや少ない～平年並
				黒星病	少ない
				シンクイムシ類	やや多い
ハマキムシ類	平年並～やや多い				
ハダニ類	平年並～やや多い				
アブラムシ類	やや少ない				
カキ	円星落葉病			やや少ない～平年並	
果樹全般		カキミガ	平年並		
		カメムシ類	やや多い		

中国地方1か月予報(7月2日～8月1日・広島地方气象台6月30日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生時期

平年並

発生量

平年並

予報の根拠

① 6月28日に本田での初発生を認めた。

② 6月下旬の巡回調査(70ほ場)では発生を認めていない(平年の発生ほ場率0.9%、発病株率0.3%)。

- ③常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。
- ④向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査(70ほ場)では発生を認めていない(平年の発生ほ場率0.9%、発病株率0.0%)。
- ②常習発生地の一部では育苗箱施薬が行われている。
- ③向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) 縞葉枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月28日に本田での初発生を認めた。
- ②媒介虫のヒメトビウンカの発生量が多いと予想される。
- ③4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、定点調査では0%(平年0.6%)と低いものの、一部の縞葉枯病発生地域では保毒虫率が高い。
- ④5月下旬巡回調査でのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%と低い。

(4) 黄化萎縮病

予報内容

発生地方 常習発生地
発生量 平年並

予報の根拠

- ①近年、本病の発生は少ない。
- ②向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は52.2%(平年31.0%)、捕獲数は16.4頭/50株(平年1.6頭)で発生量は平年に比べて多い。
- ② 6月第5半旬までに予察灯(出雲市)で1頭(平年0.2頭)ネットトラップ(出雲市)において1頭捕獲された。
- ③向こう一か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(6) ニカメイチュウ(第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、被害株率は0%(平年0.15%)で発生量は平年並みである。
- ② 6月第4半旬までの予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数は平年並みである。
- ③向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(7) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は17.4%（平年23.7%）、捕獲数は0.6頭/50株（平年1.7頭）で発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(8) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 粘着誘殺灯（出雲市）への初飛来は6月第6半旬と平年並みであり、6月第5半旬までに、予察灯及びネットトラップでの誘殺は認められない。
 - ② 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は19.6%（平年35.1%）、捕獲数は0.8頭/50株（平年2.3頭）で発生量は平年並みである。
 - ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。
- 注）令和4年度 ウンカ情報 第1号 病害虫防除所HP参照。

(9) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月第5半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）及びネットトラップ（出雲市）での誘殺は認められない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認められない。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月第4半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）及びネットトラップ（出雲市）での誘殺は認められない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認められない。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(11) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6月第5半旬までに予察灯（出雲市）で斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計が74頭（平年36.4頭）と平年に比べてやや多い。
- ② 6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では斑点米カメムシ類の発生ほ場率は80.4%（平年62.2%）と平年と比べてやや多い、捕獲頭数は10.7頭/20回振り（平年10.7頭）と発生量は平年並みである。主要種はアカスジカスミカメである。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 やや少ない～平常並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は6.8%（平常7.2%）であり、発生量は平常並みである。

② 向こう一か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は0.2%（平常0.9%）であり、発生量は平常に比べて少ない。

② 向こう一か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

予報の根拠

① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平常に比べてやや早く、6月第6半旬までの誘殺数は124頭（平常49.8頭）とやや多い。

② 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 やや早い

発生量 平常並～やや多い

予報の根拠

① 県予察ほ場（出雲市）のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺時期は平常に比べてやや早く、誘殺数は平常並みである。

② 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(5) ハダニ類

予報内容

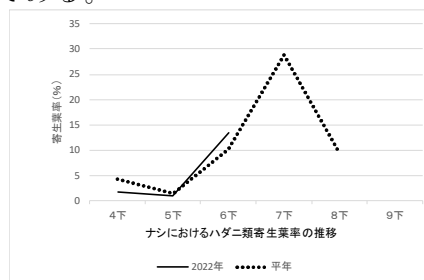
発生地方 県内全域

発生量 平常並～やや多い

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、寄生葉率13.5%（平常10.2%）、寄生虫数28.4頭/50葉（平常21.8頭）と平常並みである（右図参照）。

② 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。



(6) アブラムシ類

予報内容

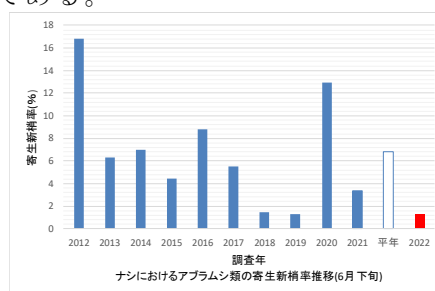
発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、寄生新梢率1.3%（平常6.8%）、寄生度0.4（平常2.7）と平常に比べてやや少ない（右図参照）。

② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平常並みである。



③向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

2) カキ

(1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量(感染量) やや少ない～平年並

予報の根拠

- ①前年の発生は平年並みで、伝染源量は平年並みと考えられる。
- ②向こう一か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) カキミガ(第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①前年の第2世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。
- ②向こう一か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

3) 果樹全般

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域(特にナシ無袋、カキ栽培地帯)
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①6月第6半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は597頭(平年値211.1頭)と平年に比べてやや多い。
- ②向こう一か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
令和4年度 病虫害発生予察情報 技術情報 第1号参照

農薬の安全使用の徹底を!

- ・農薬の使用基準(適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数)を遵守する。
- ・防除履歴(使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量)を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散(ドリフト)しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病虫害の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病虫害防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病虫害防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>